

## 議事要旨

2015年11月20日、タイ・バンコク市内の Novotel Bangkok on Siam Square ホテルにおいて、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）の後援の下、一般財団法人日本エネルギー経済研究所（IEEJ）とタイ・チュラロンコン大学エネルギー研究所（CU-ERI）の共催により「Symposium on Sustainable Power Supply Mix in the Future」が開催された。

本シンポジウムは、特に石炭火力発電に焦点を当てながら、東アジア・アセアン地域において持続可能な電力供給構造を実現するために必要な取組について、情報共有や議論を行うことを目的に開催された。本シンポジウムは、特別・基調講演セッション及び3つの分野別セッションから成り、各セッションではパネリストからの発表の後に、質疑応答の時間が設けられた。

特別・基調講演セッションでは、Ministry of Energy (MOEN), Thailand 及び ERIA の専門家が、タイ及び EAS 地域におけるエネルギー政策・エネルギーミックスの現状や今後の見通しについて解説した。

セッション1では、ASEAN Centre for Energy (ACE)、Ministry of Energy and Mineral Resources (MEMR), Indonesia、Ministry of Energy, Green Technology and Water (KeTTHA), Malaysia 及び The Energy and Resources Institute (TERI), India の計4人のパネリストから、ASEAN 地域及び各国のエネルギーミックスの見通しの紹介や、石炭利用高度化の重要性についての説明がなされた。続いて、参加者からの質問に基づき、高効率石炭火力発電（IGCC等）の開発に対する資金援助や、ASEAN 地域における電力輸出入等の課題についての議論が行われた。

セッション2では、Ministry of Natural Resources and Environment (MNRE), Thailand の専門家から、タイでは環境規制によって石炭火力開発が年々厳しくなっている旨の説明がなされた。続いて、東京電力から、同社におけるクリーン・コール・テクノロジー（CCT）を活用した石炭火力発電所の導入状況が紹介された。タイの参加者からは、日本からの CCT の輸出に対する期待が示された。

セッション3では、IEEJ、Rotary Peace Center, CU, Thailand 及び BLCP Power Station, Thailand の3人のパネリストから、欧州やタイにおける、石炭火力発電所の建設に対する社会的受容性向上の考え方や実際の取組についての紹介がなされた。議論を通して、石炭火力発電所プロジェクトの実現に当たっては、発電所の環境適合性のみならず、発電所が立地地域にもたらす便益について、立地地域の理解を得ることが必要不可欠であることが明らかになった。

本シンポジウムでは、東アジア・アセアン地域において持続可能な電力供給構造を実現する上での石炭火力発電の重要性について共通認識が得られた。また、石炭火力発電の導入における、資金援助、技術開発及び社会的受容性向上といった課題の解決方法について活発な議論が行われた。